

再評価結果（令和5年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局 国道・技術課、高速道路課

担当課長名：長谷川 朋弘、橋本 雅道

事業名	一般国道468号 首都圏中央連絡自動車道 (茂原～木更津)	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 関東地方整備局 東日本高速道路(株)
起終点	自：千葉県茂原市石神 至：千葉県木更津市犬成			延長	28.4km
事業概要	<p>首都圏中央連絡自動車道（圏央道）は、東京都心から半径およそ40～60kmの位置に計画されている延長約300kmの高規格幹線道路であり、3環状9放射道路ネットワークの一部を形成し、東京都中心部への交通の適切な分散を図り、首都圏全体の交通の円滑化、首都圏の機能の再編成等を図る上で重要な路線である。</p> <p>茂原～木更津区間は房総半島における新たな自動車専用道路として、圏央道（東金茂原道路）、東京湾アクアライン連絡道及び館山自動車道に接続することにより、千葉県と東京都及び神奈川県を結ぶ広域的な高速交通ネットワークを形成するものであり、産業活性化の支援、災害時の代替路確保を目的とした延長28.4kmの自動車専用道路である。</p>				
H4年度事業化	H6年度都市計画決定	H10年度用地着手	H11年度工事着手		
全体事業費	約2,198億円	事業進捗率 (令和4年3月末時点)	約82%	供用済延長	28.4km
計画交通量	18,400～28,100台/日				
費用対効果 分析結果	B / C (事業全体) 1. 1 (残事業) 4. 4	総費用 (残事業)/事業全体 317 / 3,642億円 事業費：290/3,466億円 維持管理費：27/176億円	総便益 (残事業)/事業全体 1,407 / 3,945億円 走行時間短縮便益：1,386/3,604億円 走行経費減少便益：5.3/280億円 交通事故減少便益：16/61億円	基準年	令和4年
感度分析の結果	<p>【事業全体】交通量：B/C=0.97～1.2（交通量 ±10%） 事業費：B/C=1.1～1.1（事業費 ±10%） 事業期間：B/C=0.99～1.2（事業期間 ±20%）</p> <p>【残事業】交通量：B/C=4.0～4.9（交通量 ±10%） 事業費：B/C=4.1～4.9（事業費 ±10%） 事業期間：B/C=4.1～4.7（事業期間 ±20%）</p>				
事業の効果等	<p>①産業活性化の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 圏央道（茂原～木更津）の開通により、成田・羽田の両空港や首都圏各地へのアクセス性が向上し、千葉県内の新規工場立地面積は大きく増加。 圏央道（茂原～木更津）が千葉県内の産業活性化を支援。 <p>②水産業活性化の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 全国有数の漁業県である千葉県は、「千葉ブランド水産物認定制度」により水産業の振興を推進。 勝浦漁港のカツオは千葉ブランド水産物に認定されており、上場水揚量は全国2位。 圏央道（茂原～木更津）の開通により、漁港から市場までの所要時間が短縮し、水産業活性化を支援。 <p>③災害時の道路ネットワークの強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 災害時において、内陸部から東京湾岸部および県東部沿岸部の啓開・復旧ルートへのアクセスが可能となる。 				
関係する地方公共団体等の意見	<p>千葉県知事の意見：</p> <p>圏央道は、アクアラインと一体となって、首都圏の各都市と成田空港などの拠点間を環状につなぎ、国際競争力の強化や地域経済の活性化を図り、災害時の道路ネットワークを強化する極めて重要な道路である。</p> <p>圏央道沿線各地域では、企業立地の促進や観光入込客数の増加など、経済に好循環をもたらしているが、茂原長南ICから木更津東IC間は暫定2車線となっていることから、ネットワークの機能拡充による生産性の向上等に加えて、安全で円滑な交通の確保や防災力の強化を図るためにも、早期の4車線化が必要である。</p> <p>また、沿線地域等からは（仮称）かずさインターチェンジの整備が求められている。</p> <p>については、事業の継続が必要であり、4車線化や（仮称）かずさインターチェンジの早期整備を図りたい。</p>				

事業評価監視委員会の意見	
事業の継続を了承する。	
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	
・圏央道「東金茂原道路」が暫定2車線供用（平成25年4月27日）。	
事業の進捗状況、残事業の内容等	
<ul style="list-style-type: none"> ・平成4年度に事業化。 ・平成19年3月に木更津東IC～木更津JCT間が供用。 ・平成25年4月に茂原長南IC～木更津東IC間が暫定2車線供用。 ・今後の交通状況を踏まえ、全線4車線整備について検討する。 	
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	
・今後の交通状況を踏まえ、全線4車線整備について検討する。	
施設の構造や工法の変更等	
引き続きコスト縮減に努めながら事業を推進していく。	
対応方針	事業継続
対応方針決定の理由	以上の事業の効果及び進捗状況、関係する地方公共団体等の意見、事業評価監視委員会による審議を踏まえると、事業の必要性、重要性は高いと考えられる。
事業概要図	

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。